

会 議 録

会 議 名	令和4年度 第2回東松山市いじめ問題対策連絡協議会					
開 催 日 時	令和5年2月13日（月）			開 会	15時00分	
				閉 会	16時27分	
開 催 場 所	東松山市総合会館4階 多目的ホールB					
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 協議 （1）本市のいじめの現状、いじめ防止等の取組状況について （2）いじめ問題等に係る各関係機関の取組について （3）今後のいじめ防止対策について （4）その他 4 その他 5 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	1名		
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	会 長	田嶋 直美	出席	委 員	鶴崎 芙花	欠席
	委 員	小暮 晴彦	欠席	委 員	田中 恵美	欠席
	委 員	遠藤 和宏	出席	委 員	椎名 和昭	出席
	委 員	三谷 アスカ	出席	委 員	石川 直哉	出席
	委 員	宮村 英里子	出席	委 員	杉浦 裕美	出席
	委 員	稲垣 孝章	欠席	委 員	横田 菜月	出席
	委 員	山田 紀子	欠席			
事 務 局	学校教育部長 小林 強			学校教育部次長 野口 高志		
	学校教育課長 久保田 慶一			指導主事 三浦 祐司		
	生徒指導専門職員 大木 剛					

次 第	顛 末
1 開 会 学校教育課長	(事務局開会宣言)
2 あいさつ 学校教育部長	(あいさつ)
3 協 議 会長 事務局 生徒指導専門職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の会議に係る議事録の確認を行う委員として、遠藤和宏 委員及び 三谷アスカ 委員を指名する。 <p style="text-align: center;">協議事項（１）本市のいじめの現状、いじめ防止等の取組状況について</p> <p>本市のいじめの現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いじめの認知件数」は、埼玉県は年々、増加傾向である。令和２年度に対する令和３年度の認知件数は、埼玉県においては小学校で約１．２倍、中学校で約１．４倍。 ・ 東松山市の現状は、同じく令和２年度に対する令和３年度を比較すると小学校で約１倍、中学校では０．３倍と減少している。しかし、今年度１２月までの数値を見ると、１月～３月までの集計を待たずに小学校においては前年度並みの状況、中学校においては、前年度の数値を超える状況となっている。 <p>各学校の生徒指導の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いずれの学校も児童生徒は落ち着いた、規律ある生活態度で過ごしており、教育活動が正常に行われている。小・中学校の各教室を訪問すると児童生徒が真剣に学んでいる様子がわかる。ただ、その一方で課題もいくつか見られる。 ・ いじめについて、いくつかの事例が報告されている。深刻化、長期化するような報告は現時点ではない。各校ではいじめの発生時、発見時には慎重にかつスピーディーに対応するよう心がけ、よりよい方向に導いている。 ・ 虐待事案も数件発生しているが、学校と関係機関が情報を共有し、支援を連携することで事態の深刻化を防ぐことができている。 ・ 非行・問題行動については、夏休み中、夜間徘徊、無断外泊、喫煙・飲酒等を起こし、各校で指導を受けた生徒はいる。ただ、そのような生徒たちがグループ化する、あるいは他校間でつながるといった様子は今のところはない。東松山警察署少年係長からは「現時点ではグループ化の様子はなく、事件・事故も一切発生していない」と情報提供をいただいている。 ・ 不登校児童生徒については、１２月末の報告で、小学校では１１校中９校に不

	<p>登校児童がいて、その数は38名になる。一方、中学校は5校全校にいて、その数は108名になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策は市内小・中学校の生徒指導上の最重要課題である。各校の生徒指導・教育相談体制の工夫改善、相談員・SC・SSW及び市立総合教育センターとの効果的な連携体制、活用方法について見直すことも必要である。 ・落ち着きがなく授業に集中できない、いわゆる多動といわれる児童生徒への対応がある。観察する限りではいくつかの小学校にこのような児童がいて、担任をはじめ、担当する先生方が試行錯誤しながら、粘り強く指導支援している。それでも指示に従わず、勝手に行動してしまう児童生徒もいる。専門機関、医療機関と連携し、よりよい指導・支援方法の確立が求められる。 ・SNSを利用した嫌がらせなどネットトラブルが微増している。ネットトラブルは発見が遅れるなど、対応が困難なケースがある。そのため、トラブル発生時には必ず東松山警察署と連携し、対応するようにしている。 ・自傷行為に陥っている児童生徒が数名いる。学校では日々観察・支援にあたっていて、保護者とも情報を共有するなど多くの目で見守っている。 <p>本市のいじめ防止等の取組状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市における「いじめの取組状況」としては、「いじめ防止対策推進法」にもあるように、各学校が実態や現状に応じて「いじめ対策委員会」をつくり、全教職員で組織的に取り組んでいる。 ・本市の「いじめ防止等のための基本的な方針」に、いじめに対する基本的な認識やいじめ防止等のための方策を挙げている。 ・東松山市いじめ問題対策連絡協議会の設置のところに本協議会は位置づけられている。また、市の基本的な方針を踏まえて、それぞれの学校でも基本的な方針を策定している。 ・その他に、東松山市では生徒指導専門職員1名を独自に配置し、各学校のいじめ等の情報収集をしている。また、スクールソーシャルワーカー2名を週3日間配置し、各学校の児童生徒、その保護者への対応を行っている。さらに、市総合教育センターにて臨床心理士3名が相談業務にあたっている。 ・東松山市の小中学校に通う児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、今後もしじめの未然防止、早期発見、早期対応を目指して取り組んでいく。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見はあるか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見なし
各委員	<ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見なし

<p>1号委員 遠藤委員</p>	<p>協議事項（2）いじめ問題等に係る各関係機関の取組について</p> <p>中学校の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の生徒理解の向上と共通理解として、4つ取り組んでいる。①生徒指導部会の充実として、週に1度、各学年の生徒の様子について話し合う場を設けている。保健室や相談室の様子についても共有し、共通理解を図れるようにしている。小学校へ中学校の教員が1名、週に1度、高坂小学校、唐子小学校へ伺い、小学校の様子も共通理解を図っている。②教育相談部会としては、不登校生徒が多い現状があるため、欠席が続いている生徒と実際に会えているのか、会った時どういった様子だったのかという内容も含めて、こういった場を設けている。③教育相談週間を年に2回、5月と2月に実施している。5月は新学期始まってどうか、2月は次年度のことに向けてといった内容を中心に話を聞いている。④イライラもやもやチェックシートを学期に2回程度実施している。心の様子、心配なことや不安なことはないかを確認できるように記名式で行っている。多くの生徒は何もなしと書くが、何か聞いてほしいという生徒は具体的に書いてくれる。こういった小さなところから担任を中心に声をかけている。何もないと書く生徒もいるが、あえて教師から聞いてみるといったきっかけにしている。 ・生徒会活動の充実としては、朝の挨拶運動を行っている。生徒会本部役員と評議委員会があり、月に1回程度取り組んでいる。学校行事の運営では、行事ごとに実行委員会を立ち上げ、できるだけ生徒主体で取り組めるように教員がサポート体制に入りながら、リーダーの育成も含めて、運営を生徒に任せる機会を大事にしている。 ・道徳授業の充実として、道徳の授業を通して自分自身、または人との関わりについて触れ、これからどうやって生きていくか、周りの意見も聞き、自分の考えを深めていくという機会を大事にしている。 ・今年度も終わろうとしているが、いじめはなかったわけではない。ある例では、周囲から見ると仲良しに見えていたといったものもある。やはり様子をきちんと見る、話を聴くなど、アンテナを高くしていけないと課題に感じた。今後も、いじめが1つでも減るように、また0を目指して取組を続けたい。
<p>三谷委員</p>	<p>小学校の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する現状について、4月から今日までいじめに係る重大事態は発生していない。しかし、いじめの認知件数は12件であった。ほとんど解消はしているが、まだ解消されていないものもある。いじめの内容としては、相手か

ら嫌なことを言われたり、下校中に他学年から絡まれたりして嫌な思いをしているといった心理的苦痛を感じているものが多い。いじめの多くは、被害を受けた児童に寄り添いながら話を十分に聴き、加害児童に自分の行動を振り返らせて、いじめは絶対に行けないことであるという指導をしていく中で、ほとんどが解消に向かっている。しかし、いじめが継続している場合も残念ながらある。例えば、下校中に他の学年とのトラブルがあり、現在でもその児童に会うと嫌なことを言われるということがある。このように、いじめが解消されてない場合の加害児童の多くは、家庭環境が複雑であったり、本人の特性が強かったりする場合が多い。そのため、児童を総合的に理解した上でいじめ防止に取り組んでいる。

- いじめを未然に防ぐ取組として、お互いの良さを認め合える学級づくりにより、自己肯定感を育てる取組を全校で行なっている。子供たちには、自分自身を大切に思う気持ちを高め、同じように友達を大切にしていこうというように指導している。一人一人がクラスに居場所を見つけて「私はここのクラスでいいんだ」「私はここでいいんだ」という確認にもつながっている。
- 学校生活アンケートの結果、授業が楽しい、分かるの項目が全ての学年において1学期よりもポイントが上回った。授業が充実し、それぞれのクラスに学びの雰囲気が出てきていると感じている。授業が充実してくると、学校全体が徐々に落ち着いてきた。もちろん、配慮を要する児童も多いが、教師が一人一人の良さを生かした授業をしようと取り組んでいる。勉強がなかなかできない低位の児童も活躍できる授業づくりを実践している。
- 挨拶ミッションとして、挨拶運動に取り組んでいる。好ましい人間関係づくりのきっかけになればとレベル1からレベル10までのミッションを教師の方から示して、子供たちは楽しみながら挨拶をしている。例えば、6年生の挨拶が素晴らしかったため、6年生の3人に挨拶をしようという、異学年交流の挨拶の機会を設けた。最後のレベル10は、本校約400人で1万回挨拶をしようと、校長が設定した。学校で20人に挨拶をし、外で交通指導員や地域の人に5人挨拶をすれば達成できると目標設定した。集計したところ、1万回を達成した。好ましい人間関係づくりのきっかけになればと取り組んでいる。
- 3行日記を私のクラスで取り組んでいる。一人一人の思いを受け止めるために取り組んでいる。子供の方から教員へ寄ってきてくれる時は良いが、学級で静かでおとなしく埋もれてしまう子もいる。そういった子とは、3行日記でコミュニケーションを図っている。このように、一人一人の思いを受け止めるために、各担任がそれぞれ工夫をしている。

<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成果としては、これまでに重大ないじめ事案が起きていないこと。問題は小さいうちに対応していく生徒指導が学校全体で行われている。温かい人間関係づくりをしようと、学校も教員も一生懸命に取り組んでおり、雰囲気が明るく前向きである。児童と教員、双方の想いが向き合っているため、不登校傾向の児童は数名いるが、不登校は0人である。 ・課題は、教員が一生懸命であるため疲弊してしまう心配がある。働き方改革も進んでいるが、教員の心のゆとりや、時間的なゆとりを生み出す必要がある。また、本校でも、SNSトラブルに係る研修をしていく必要がある。 <p>・質問・意見はあるか。</p>
<p>宮村委員</p>	<p>質問・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南中学校のイライラもやもやチェックシートを活用して、いじめ問題の早期の発見に繋がったことは実際にあるか。 ・いじめの例で、仲良さそうに見えていたものがあったが、1対1であったのか、それともグループであったのか伺いたい。 ・新宿小学校の取組で児童を総合的に理解するとあったが、総合的に理解する上で取り組んでいることがあれば教えていただきたい。
<p>遠藤委員</p>	<p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イライラもやもやチェックシートについては、いつからイライラするかや、悩みについてもいくつかの項目があり、それを基に話をしているが、今年度は特にいじめの発覚に繋がったものはなかった。話を聞いたことで、目には見えないが未然防止に繋がったものもあったのかも知れない。 ・先程の事例については、仲良しは3人グループであったが、結果的に1対1のようになってしまった。2対1の構図ではあったが、特にその2人のうちの1人の子の方が嫌な気持ちが強いといった訴えであったが、どちらかといえばその子の方が仲良しに見えていたという様子であった。
<p>三谷委員</p>	<p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童を総合的に理解ということについては、担任一人の角度から見るのではなく、いろいろな角度から見る事が考えられる。例えば、隣のクラスの教員が児童の様子を観察したり、養護教諭が保健室でよく話を聞いたりしている。養護教諭から心配な児童の話があがってくることも多い。その他にも、

<p>会長</p>	<p>過去に担任をしていた教員からの情報も共有しており、参考にしながらいろいろな角度から子供を見て、今までどのように成長してきたのかも踏まえて指導をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他に質問・意見はあるか。
<p>各委員</p>	<p>(質問・意見なし)</p>
<p>4号委員 椎名委員</p>	<p>東松山市PTA連合会の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何校かに、いじめがあるかを聞いてきたが、いずれの学校もほとんどないとのことであった。些細なことならあるが、大きな問題はないようである。 ・不登校がとても多いという意見があった。周囲にも不登校になる子がいる。その理由を聞いてみると、大人からすると大したことではなくても、子供にとっては心に響いてしまうこともあるようである。 ・保護者が、朝、一緒に連れて学校に行かせるが、1時間経つとお腹が痛いなどで保健室に行き、3時間目くらいには帰ってしまうなど、なかなか学校へ行けないという子もいる。しかし、高校へは行きたいようで、子供自身もなんとかしなくてはいけないという気持ちはある様子である。 ・気分転換にどこかへ連れて行くという方法も良いのではないか。 ・コロナの影響により、小学校の授業が駆け足になったことで、中学校に上がった際に勉強についていけなくなり、不登校になってしまったという事例もあるようである。 ・不登校の生徒で、夜中や明け方までゲームをしている子もいる。 ・中学校で猥褻な動画を送り合っているという事案があり、警察も介入しているといった情報があった。 ・小・中学生はよく挨拶をしてくれる。各学校できちんと指導してくれているからだと思う。 ・中学校へ行った際の下駄箱を見たら、かかとも潰されていない靴が綺麗に並んでいた。そういったところの指導もしっかりされていると感じた。
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見はあるか。
<p>各委員</p>	<p>(質問・意見なし)</p>

5号委員
杉浦委員

主任児童委員の活動について

- ・民生委員、主任児童委員は、いじめ問題を解決するという立場ではなく、子供やその家庭を見守るとか、支援していくという立場であるため、実際にいじめ問題に係ることはない。しかし、子供たちがいじめをする気持ちにならないように環境を整えることなどが重要ではないかと思っている。
- ・ウェルカムベビー訪問として、生まれて3ヶ月の赤ちゃんがいるお宅を訪問して、ちょっとしたプレゼントを差し上げている。その際に、子育て支援課やソーレ、マーレを紹介して、お母さんが独りにならないように声掛けを行なっている。
- ・毎年1回、市内の保育園、幼稚園、放課後児童クラブを訪問して、園の様子を聞くとか、支援や見守りの必要な家庭があるかとかを伺っている。
- ・小中学校との連絡協議会でも支援や見守りの必要な家庭などの情報交換を行なっている。6～7月に1回目、2～3月に2回目を行なっている。情報をいただいたからといって、そのお宅に伺ってどうこうすることはなく、情報を頭に入れておき、何かあった時につながるがあれば、またそれを学校にフィードバックしていく。
- ・その他個々の活動としては、登下校の見守りをしている方が多い。子供たちについて学校へ歩いて行くと、話をしたがって、よく話しながら学校へ行っている。そういった時に家庭の様子を聞けることもある。いつもと違う時が段々と分かるようになってきて、少し元気がない時などは学校へ連絡をするなどしている。朝の見守りは、短時間であるが必要だと感じている。直接的に、いじめられているといった話を受けたことはないが、そういうところからも情報が得られると思う。
- ・先日、赤ちゃん抱っこ体験のお手伝いをしてきた。主任児童委員が多く参加した。コロナ禍のため、実際の赤ちゃんを中学生が抱っこすることはできなかったが、妊婦体験と新生児人形での抱っこやオムツ替えを行った。Zoomでソーレ、マーレと中学校を繋いで、お母さん方に中学生が質問をして交流をもつ機会もあった。妊婦体験では物を拾うのも、靴下を履くのも難しく大変であることなど、中学生は多くのことを感じ取ってくれていた。新生児人形の赤ちゃんを抱っこした時には、柔らかいとか、首がガクガクするとか、オムツの変え方は男女で違うとか、いろんなことを体感していた。お母さん方への質問もいろいろな質問が出て、お母さん方も真剣に答えてくれて、10分ちょっとの交流であったが、密度の濃い時間だった。短い時間であったが、育児の大変さや親への感謝、妊婦への思いやりといった感想が多かった。み

横田委員

んな昔は赤ちゃんで、一人一人が大切に育てられてきて、人間は誰かの手が加わらないと生きていけないということで、いろんな人の目や手によってここまで大きくなったことに気づき、自分の命も大切だということもなんとなくわかってくれたのではないかと思う。そういう気持ちを持っていれば、他の人をいじめようとか、そういう気持ちも少しはなくなるのではないか。自分のことを好きになってもらいたいし、命を大事にしてもらいたい。そのために赤ちゃん抱っこ体験の授業は良いと思っている。できれば、市内の全中学校やっていただきたい。

- いじめの解決に直接関わることはできないが、そこに至るまでの過程の子供たちの自己肯定感を高めることや、いじめてしまう子の複雑な家庭環境への支援などに関わっていき、いじめてしまう気持ちにならないように子供を育てていかなければいけない。
- いじめの問題を解決することも必要であるし、もっと底辺の命のことや心のことを、本当は家庭で教えなければいけないのかもしれないが、家庭の教育力が低下している中で、やはり学校でやってあげなければいけないと思う。命の授業や自分の心のコントロールの仕方など、学校で学んでいけばいいのではないかと思う。
- 本当に学校は大変なので、何かお手伝いができればさせてほしい。
- 各学校であいさつ運動に力を入れていると思う。
- 朝、子供の見届けをしていると、少し疲れていてがっくり肩を落として学校へ行くような子も見かける。そうかと思えば、「いつもありがとうございます。」とか言ってくれる子もいる。ちゃんと子供たちは見守られているということが、安心感がある相手であれば挨拶ができる。マスクをしている人や、見慣れなくどういう人か分からない人には、子供たちは警戒感を持っていると思う。この時期、コロナがあってマスクをしていて、地域の繋がりも薄れてしまい、祭りもなくなって、挨拶をしていけば、また地域が繋がっていくと思うが、大人もちゃんと挨拶を交わすことで不審者を排除できるということもあると思うし、子供だけではなく大人も巻き込んで挨拶をしていくということは基本的なことになると思う。
- いじめとカテゴライズできるか分からないが、4件の相談を受けた。親は自分の子供のことになるとどうしても頭に血が昇ってしまい、すぐ学校に行きたいという気持ちになってしまうところがあるが、私たちはその気持ちも分かるが学校の教職員の大変さも分かっているので、今そのテンションの上だった状態で学校へ行かれても困ってしまうだろうということも慮って接し

	<p>ている。協議会を定期的に小中学校で開き、気になる子やサポートが必要な子の情報を出していただくことで、信頼関係を作って、また私たちが地域に戻っていくことで、各家庭の親から相談を受けたことにワンクッション置くなど、調整役を担っている場合もある。例えば、連絡協議会を開いてくれない学校があると取りなすことすらできなくなってしまう。ボランティアであり、活動には限界があるが、うまく活用してほしい。</p>
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見はあるか。
<p>各委員</p>	<p>(質問・意見なし)</p>
<p>事務局</p>	<p>協議事項（3）今後のいじめ防止対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている取組としては、学校生活アンケートの各校の実施、休みがちな児童生徒に対する初期対応のマニュアル、児童生徒一人一人の情報を蓄積させる生徒指導カルテの活用などを行っている。今後もこの取組については引き続き行っていく。 ・今年度の市内の様子を振り返ると、本市の新たな生徒指導上の課題として、SNSトラブルが挙げられる。具体的には、心無い書き込みや、写真や動画などの拡散などが主なトラブルの原因であった。 ・そのため、来年度の取組として、今年度いくつかの学校で実施した「児童生徒自身によるネット利用ルール作り」を市内全校で取り組むことを目指す。 ・また、関係各所と連携し、児童生徒向けの「ケータイ・スマホ安全教室」の実施を進めていきたい。 ・ネットトラブルについては、学校外で発生することがほとんどである。引き続き、新入生説明会や保護者会などの機会に、保護者への注意喚起も行っていく。 ・今後、これまで以上に目に見えにくい形の事案が増加することが予想される。そのため、いかにして児童生徒の些細な変化やサインを受け取るか、児童生徒自身が発信しやすい状態を作り出すかが重要であると考えます。 ・そこで、令和元年度に見直しをした学校生活アンケートの活用方法についての再周知、令和2年度より各学校へ情報提供をしてきた「SOSの出し方教育」の実践に取り組んでいく。 ・具体的には、学校生活アンケートの活用方法の再周知について、各項目の意図について改めて確認をしていく。この資料は小学校低学年版、小学校中・

	<p>高学年版、中学校版の3種類がある。以前の生活アンケートは「いじめはありましたか」とか「悩みはありますか」というような本人が認知できている項目を聞く形になっていたが、このアンケートでは「自分の心の様子、体調」などにも触れ、「まだ認知できていないもやもやした感覚」を答えられるようになっている。また、相談したい相手やいつ相談したいかまで触れているため、適切な相手が適切なタイミングでSOSを受けることができる。また、内容のチェック方法として、担任が「このくらいなら大丈夫だろう」ではなく、学校内で声をかける児童生徒の基準を明確にし、その対象には一律に声をかけていくという形になっている。いじめの発見が遅れる要因の一つとして担任が抱え込んでしまったり、大丈夫だろうと思ってしまったりすることがある。これらを避けるために、このような形になっている。さらに、チェック後の流れについては、アンケートについては問題がありそうな児童生徒だけでなく、全ての児童生徒のアンケートをデータで卒業後3年間は保存としている。以前の形では、問題があった児童生徒だけ情報を集約し、それ以外は破棄するという形をとっている学校が多かったが、「問題がなかった」というアンケートもいざ重大な事態が起きた後に重要な資料となるため、このような形をとっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に、「SOSの出し方教育」については、これまで情報提供という形で各学校へ示してきたが、来年度はいずれかの学校で実践してもらうよう調整をしていく。実施後は、検証を踏まえ、残りの学校へも広めていきたい。 ・最後に、東松山市では「東松山モデルつなぐ」を今後も運用していく。いじめだけでなく暴力行為や不登校、犯罪などから子どもたちを守るために学校、関係機関、地域、警察、そして教育委員会が連携をしていく。今後ともご協力をよろしくお願ひしたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見はあるか。
石川委員	<p>質問・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSなどで巧妙化されてくるいじめがおそらく増えてくると思うが、それを拾い上げるための項目が、今回、提案されたアンケートの項目という考え方でいいのか。
事務局	<p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃる通りである。なかなか言えない子供たちも表現しやすい項目にな

石川委員	<p>っている。少し体調が悪いとか、お腹が痛いといったところにチェックがあることで、先生たちは話を聞くことができる。</p> <p>質問・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS、LINE などによる悪口でも、いじめという認識になるかと思うが、そういったものを拾い上げていってれば、中学校のいじめは自分が思っている認識より非常に少なかったが、もっと多いのではないか。そういったものの拾い上げが、このアンケート項目なのか。
事務局	<p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状は、すべて拾うようにしている。しかし、必ずしも拾い切れない部分はあると考える。子供と積極的に寄り添うことで初めていじめを認知することができると思うので、認知件数が多いほど子供と寄り添うことができているとも考えられる。今後も積極的に些細なことでも拾っていけるように指導していきたいと思っている。
石川委員	<p>質問・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS に限定した質問項目があるわけではないということか。例えば、悪口や嫌なことを書き込まれると書いてしまうと少し緩くなってしまう。具体的に、もっと分かりやすく SNS やインターネットに特化した項目などがあるのか。小学校でも 4 年生くらいからスマホなどを持っている。どんどん低年齢化が進んでいく中で、見えないものがいっぱいあると思う。そういったものの拾い上げ方が大事だと思う。拾い上げることが未然に防ぐことに繋がると考えた時の項目というものがあるのかを知りたかった。
事務局	<p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校では、ここで示したアンケートを基として、自校に合う形にしている場合もあるため、学校によってはインターネット等のトラブルについてダイレクトに聞いている可能性もある。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に質問・意見はあるか。
各委員	<p>(質問・意見なし)</p>

<p>会長</p> <p>各委員</p> <p>会長</p>	<p>協議事項（４）その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他に委員の方々から何かありますでしょうか。 <p>（特になし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議長の任を解かせていただく。
<p>4 その他</p> <p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回、来年度の第1回の協議会は、7月の開催を予定している。 ・来年度も委員の方々に貴重なご意見等をいただきながら、いじめの未然防止、早期解決、解消を図っていく。
<p>5 閉会</p> <p>学校教育課長</p>	<p>（事務局閉会宣言）</p>
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和5年 3月 3日 <u>署名委員 遠藤 和宏</u></p> <p style="margin-left: 250px;"><u>署名委員 三谷 アスカ</u></p>	